

〔別 紙〕

昭和町常永地区既存大規模集客施設の 増床計画に伴う周辺道路への影響について

この集客施設計画は当初から周辺道路への影響が懸念され、協議を重ねた結果、現在の施設規模となり立地されたものである。

この度、増床計画が提出されたことから、周辺道路における交通への影響について検討することとした。

【既存集客施設の影響予測の評価】

- 平成19年（当初計画当時）の交通実態と今年度（開業後）の交通実態は別添資料のとおりである。
- 既存集客施設の立地による発生集中交通量については、平成19年の予測値に対し、今年度の交通量調査の結果による台数は、概ね7割程度である。これは、新設時の予測にあたっては、国で示している交通計画マニュアルを使用したことによる全国的な標準値との差などが考えられるが、それでも発生集中交通量は約2.2万台と極めて多い。

【増床計画における周辺道路への交通影響予測】

○増床後における当該施設の発生集中交通量の算定

- ・増床計画による周辺道路への影響を検討するにあたっては、交通計画マニュアルを用いず実績台数を基に増床後面積（約12.5万㎡）と既存施設面積（約7.1万㎡）との比較により増床割合（約1.7倍）を掛けて、当該施設の発生集中交通量を算出することとした。

○予測の手法

- ・周辺道路への交通の影響については、当初計画時と同様に三つの指標（交差点需要率、混雑度、旅行速度）を用いて評価分析し、道路の混雑や渋滞の状況を総合的に判断することとした。
- ・それぞれの指標については前回と同様に次の判断基準を混雑等の判定に用いることとした。

○判断基準

- ・それぞれの指標における渋滞の判断基準は次のとおりである。
 - ・交差点需要率 < 0.9
 - ・混雑度 < 1.5
 - ・平均旅行速度 $> 20\text{ km/h}$

○現在の状況

- ・現在の交通量は、開業前よりも増加している。(別添資料1・表1-1)
- ・交通実態を動的解析によって分析すると、深刻な渋滞が発生する直前の状態であると推測される。従って、更に交通量が増加すると深刻な渋滞が発生する可能性が高くなる。
- ・動的解析手法を用いて現況再現を行った結果、周辺道路の平均旅行速度は時速26kmであった。(別添資料2・表1-4)
- ・各路線の断面交通量に占める当該集客施設による発生集中交通量の割合が高い。(別添資料3・グラフ1-1)

○施設増床後の予測

- ・増床後の混雑度はほとんどの路線で高くなり1.5を上回る。(別添資料1・表1-3)
- ・増床後における周辺道路の平均旅行速度は時速26kmから時速19kmに低下し、判断基準の時速20km以下になってしまう。路線別にみると時速20km以下になってしまう区間が7区間あり、この総延長は約9kmである。(別添資料2・表1-4、図1-1)
- ・従って、総合的に判断すると、増床により周辺道路に深刻な渋滞が発生する可能性が高いと予想される。